



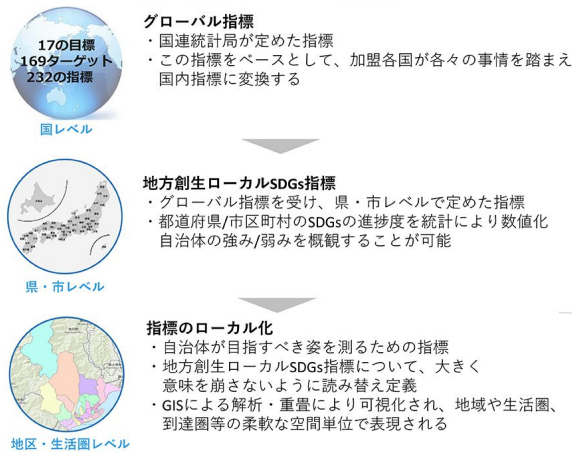
自治体のSDGs達成を支援するための地域課題見える化の取り組み ー地方創生SDGsローカル指標のさらなるローカライズー



「だれ一人取り残さない」社会の実現を目指して

2030年に持続的な開発目標（SDGs）の実現のためには、それぞれのゴールの下層にある指標を正しく整備し、その進捗管理を徹底することが重要であると言われています。自治体SDGs推進評価・調査検討会（内閣府）は、国連統計委員会が定義した232の指標（グローバル指標）を日本、特に自治体に適用できるよう統計情報を整理し、「地方創生SDGsローカル指標」を作成しました。この指標をGISを用い都市計画・地域計画に活用することで、自治体におけるSDGs達成状況を、地域や生活圏レベルで可視化できると考え検討した結果を一部紹介します。

SDGs指標のスケール詳細化



3つのパターンを検討

Type A | 特定施設への到達圏
公共サービスや高度な文化を享受出来る機会がどれだけ大きいのか、特定の施設へ何分までに到着できるかを解析し、取り残された地域への対策を検討

Type B | 指標に応じた柔軟な集計
一般的な統計データを用いる場合は地域や生活圏を、所得や指向をセグメントしたデータ等は秘匿性等の観点から適切な空間単位で集計

Type C | 動的データを用いたホットスポットの検出
施設やイベント等のヒト・モノの集積の変遷を、プローブデータ・検索履歴データ等から検出し、その背景を分析

Type A | 特定施設への到達圏

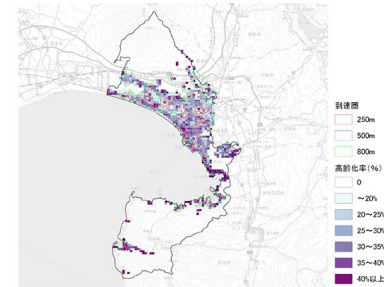
ArcGIS ProのNetwork Analyst→到達圏分析を用い、特定の施設へのアクセス（＝サービス享受）の困難な地域を特定する

3.c.1

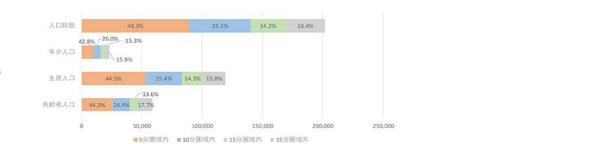
グローバル指標
医療従事者の密度と分布

地方創生ローカルSDGs指標
人口1人当たりの医師数（医師数/総人口）

指標のローカライズ
医療施設までの到達圏



高齢率（250mメッシュ、2020年）と医療施設への到達圏



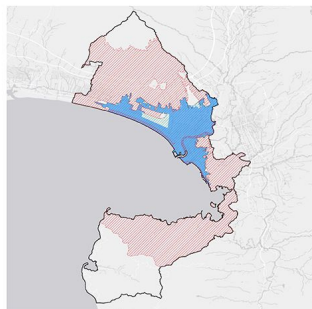
山間部や江浦湾周辺、特定の住宅街では、高齢者が多いにも関わらず医療施設まで徒歩15分以上かかる箇所が散見される
→デマンド型の出張医療サービス、診療所分館の仮設等の方策

使用データ
医療施設データ（国土数値情報（2015年））
人口250mメッシュデータ（国勢調査（2015年））
分析手法
NetworkAnalyst-到達圏分析を用い、医療施設から250m～800mの到達圏域を発生

Shoreline data is derived from: United States, National Imagery and Mapping Agency, "Vector Map Level 0 (VMAP0)," Bethesda, MD: Denver, CO: The Agency; USGS Information Services, 1997.

Type B | 指標に応じた柔軟な集計

指標に応じて集計単位やスケールが異なるため、様々なオープンデータやPAREA等のデータを用いて、適切な空間単位で集計する



人口集中区域の変遷と市街化調整区域

2010年から2015の間に片浜駅周辺でDIDが増加→人口の集積全体を見ると、市街化調整区域には広がっていない
一部地域ではDIDと市街化調整区域が重なる
→居住誘導区域への移転を促す、当該地域の土地利用を高度化する等の方策

使用データ
市街化調整区域（国土数値情報（2019年））
人口集中区域（国土数値情報（2015年、2010年））

Type C | 動的データを用いたホットスポットの検出

人流データ、自動車プローブデータ等、様々な動的データを活用することでどこにヒト・モノが集中しているか検出する

8.9.1

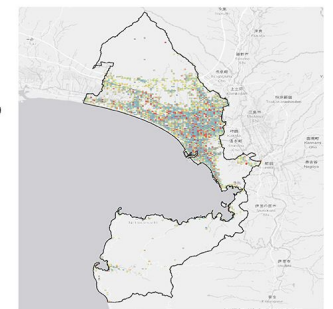
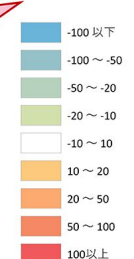
グローバル指標
全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP

地方創生ローカルSDGs指標
県内総生産当たりの観光消費額（観光消費額/県内総生産）

指標のローカライズ
観光客の増減

スポーツ施設において人口増
→コロナによる巣ごもりから運動志向の増加
神社において人口減を観測
→コロナの影響に起因するお参り控えを観測

使用データ
Wi-Fi人流データ（125mメッシュ）
使用年月：2020年1月・2021年1月
集計期間：休日（9:00-22:00）における推計人口の平均
分析手法
使用年月のWi-Fi人流データを使用し、差分を算出し可視化



1月における2020年と2021の滞在人口の比較